

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成18年12月14日(2006.12.14)

【公開番号】特開2000-89659(P2000-89659A)

【公開日】平成12年3月31日(2000.3.31)

【出願番号】特願平10-255718

【国際特許分類】

G 0 9 B 19/16 (2006.01)

【F I】

G 0 9 B 19/16

【手続補正書】

【提出日】平成18年10月27日(2006.10.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

車体のボンネットのヒンジ部並びに車体の左右のドア窓の下枠近傍に取付け具を取付け、この取付け具から地面に向って放射状に多数本の紐を張設し、張設された多数本の紐により形成される仮想面から下方の立体空間によって死角を構成することを特徴とする死角確認用装置。

【請求項2】

車体の前方及び側方に、運転席の窓越しに視認できる位置にポイント用ポールを立て、該ポイント用ポールの下部相互間を、車体の前縁辺及び左右側縁辺に沿う並行方向で、且つ、車体から所定間隔を保ち視界表示ツールのジョイントパイプを用いて横架連結すると共に、該ジョイントパイプから略運転席方向に向け多数本の紐を放射状に張設したことを特徴とする車の死角確認用装置。

【請求項3】

ジョイントパイプとツール取付け具との間に所定間隔を保ち多数本の紐を跨設してなる視界表示ツールを用い、前記ツール取付け具を、ボンネットのヒンジ部並びに車体の左右のドア窓の下枠近傍に取付けると共に、前記ツール取付け具とジョイントパイプ間を紐で張設したことを特徴とする請求項2記載の車の死角確認用装置。

【請求項4】

車体の前縁辺及び側縁辺に並行に、ポイント用ポールの下部相互間に横架連結されるジョイントパイプが、運転席からの直接視界にぎりぎり入らない位置に配設されていることを特徴とする請求項2又は請求項3記載の車の死角確認用装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は車の死角確認用装置に係り、特に、交通事故を未然に防止すべく運転に先立つて死角となる立体空間を運転者に認識させることを目的とした車の死角確認用訓練装置に

関するものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

【課題を解決するための手段】

本発明は上記課題を解決するためのものであって、その要旨は、車体のボンネットのヒンジ部並びに車体の左右のドア窓の下枠近傍に取付け具を取り付け、この取付け具から地面に向って放射状に多数本の紐を張設し、張設された多数本の紐により形成される仮想面から下方の立体空間によって死角を構成することを特徴とする死角確認用装置である。より具体的には、車体の前方及び側方に、運転席の窓越しに視認できる位置にポイント用ポールを立て、該ポイント用ポールの下部相互間を、車体の前縁辺及び左右側縁辺に沿う並行方向で、且つ、車体から所定間隔を保ち視界表示ツールのジョイントパイプを用いて横架連結すると共に、該ジョイントパイプから略運転席方向に向け多数本の紐を放射状に張設したことを特徴とする車の死角確認用装置である。